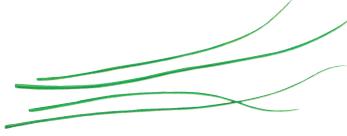




## 第99期 事業のご報告

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

**エスビー食品株式会社**

Star Anise 	Marjoram 	Rosemary 	Dill 	Ciboulette 	
Shiso 		Cardamon 	Italian Parsley 	Chili Pepper 	Sweet Basil 
Clove 	Chamomile 	Cinnamon 	Black Pepper 	Saffron 	

## 株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

ここに当社第99期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)の事業の概況と決算のご報告を申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から徐々に持ち直してまいりましたが、欧州の債務危機や円高の進行、原油などの原材料価格の高騰により、先行き不透明な状況に終始いたしました。

食品業界におきましては、お客様の節約志向が依然として続くなかで、大震災による影響もあり、食の安全・安心とともに、価格を含めた製品価値に対するお客様のご要望への対応が求められました。

このような状況のなかで、当社および連結子会社(以下「当社グループ」といいます。)は、企業理念「真の顧客満足の追求」のもと、お客様の視点に立って、当社グループの強みでありますスパイスとハーブを核とした事業活動を推進してまいりました。新たな価値の訴求や創造をテーマにした製品開発を積極的に行うとともに、レシピ提案などを通じて、おいしさや楽しさを広げる食の総合的なプロモーションを展開してまいりました。また、安全・安心な製品をお届けいたしますため、生産履歴に関する情報システムの充実や生産現場での作業品質の向上など、安全・安心を支える体制の一層の強化を進めてまいりました。特に、製品の安定供給に努め、食品メーカーとしての社会的使命を果たすべく活動してまいりました。

経営管理面におきましては、昨年6月の定時株主総会后に経営体制を刷新いたしますとともに社内コミュニケーションの活性化を図り、変化の激しい環境に迅速かつ柔軟に対応できる体制の構築に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前期比6億58百万円増の1,273億81百万円(前期比100.5%)となりました。一方、利益面におきましては、原材料価格の影響による売上原価率の上昇や競争激化に伴う販売促進費等の増加により、営業利益は前期比11億73百万円減の41億78百万円(前期比78.1%)、経常利益は前期比5億18百万円減の41億28百万円(前期比88.8%)となりましたが、当期純利益は、法人税率の引き下げに伴う繰延税金資産の取崩しによる影響がありましたものの、投資有価証券評価損が減少したことなどから、前期比46百万円増の12億96百万円(前期比103.8%)となりました。

なお、当連結会計年度における設備投資は、上田、東松山、宮城の当社3工場を中心とした製品の安全・安心対策、品質の安定・向上、生産性の向上を目的とした設備の更新・改良などにより総額21億13百万円の投資を行いました。

食料品事業においては、当社上田工場・東松山工場の生産設備の更新・改良を中心に16億33百万円、その他においては、株式会社ヒガシヤデリカ東松山工場の生産設備の更新・改良を中心に4億79百万円の設備投資を行いました。

また、当連結会計年度中に、増資あるいは社債発行による資金調達は行っておりません。

今後の見通しにつきましては、東日本大震災からの復興需要が本格化するに伴い内需を下支えすることが期待されますが、欧州における債務問題や円高、原油価格の高騰、そして電力供給不足など多くの懸念材料があり、厳しい状況が続くものと推測されます。

食品業界におきましては、先行きに対する不透明感から個人消費が依然として盛り上がらないなかで、社会環境の

変化とともにお客様の意識や要望も大きく変化していくことが予想されます。

当社グループといたしましては、このような情勢のもと、次の施策に取り組んでまいりたいと考えております。

企業理念として掲げました「真の顧客満足の追求」とは、お客様にとっての価値を知り、それに応え続けることであります。そこで、お客様より寄せられます「お客様の声」を企業の財産とし、より耳を傾け、製品やサービスに反映させるなど、あらゆる面でおお客様の視点に立った活動を継続してまいります。

「SPICE&HERB」というコーポレートシンボルのもと、スパイスとハーブに特化を図りつつ、強みをさらに伸ばし、企業全体の再構築を進めてまいります。また、スパイスとハーブの魅力を従業員が直接地域の皆様にお伝えする地道な活動を通じて、スパイスとハーブに関する情報発信を行ってまいります。

製品の安全・安心対策では、引き続き品質管理の徹底を行いますとともに生産履歴(トレーサビリティ)を確保する情報のシステム化をさらに進めていくなかで、検査体制の一層の充実にも努めてまいります。

経営管理面におきましては、執行役員制度を活用し、取締役と執行役員の役割を明確にし、経営全般のスピードアップとコーポレート・ガバナンスの強化を図り、もって経営環境の変化に迅速かつ的確に対応いたしますとともに、取締役会のもと、内部監査室の機能を発揮させて内部統制システムの充実・強化に取り組んでまいります。

企業の社会的責任に関しましては、皆様の食生活を担う食品企業として、当社グループならではの優れた品質で、

かつ安全で安心いただける製品の提供に努め、さらに皆様のご信頼とご支持を得て、社会とともに持続可能な企業であり続けられますよう、法令遵守は勿論のこと企業倫理、社会貢献活動などへの取組みに最善の努力をいたしたいと考えております。

自然の恵みによって得られるスパイスとハーブをお客様にお届けする当社グループといたしましては、地球環境保全を重要課題の一つと認識し、「環境方針」を策定し、環境に配慮した生産体制の整備や製品の開発・改良をはじめ企業活動全般から生じる環境への負荷の低減に努めてまいります。

先行き不透明でかつ変化の激しい時代環境下において、既成概念にとらわれることなく全社全部門でさらなる生産性の向上を積極的に進め、変化に迅速かつ柔軟に対応できる企業体質の構築に取り組んでまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月



代表取締役社長

山崎 雅也

## 食料品事業

売上高 1,177億52百万円 前期比 100.4%

### ● スパイス&ハーブ

「SPICE&HERB」シリーズをはじめとする洋風スパイスは、引き続きシェアを伸ばいたしました。また、「マジックソルト」などのシーズニングスパイスや業務用香辛料製品、そしてフレッシュハーブも売上に寄与いたしましたことから、売上高は前期比4億3百万円増の198億60百万円となりました。



### ● 即席

主力製品の「とろける」シリーズは、「とろけるこいカレー」などがご好評をいただきましたことから、売上を伸ばしました。また、濃厚な味わいが特徴の新製品「濃いシチュー」が、お客様の幅広いご支持をいただきましたことから、売上高は前期比13億11百万円増の340億4百万円となりました。



### ● 香辛調味料

チューブ製品におきましては、お徳用タイプが引き続き伸ばいたしますとともに、「本生」シリーズや「風味推薦」シリーズも堅調に推移いたしました。また、中華調味料の李錦記ブランド製品も売上に貢献いたしました。また、ラー油関連製品が前期実績の反動もありましたことから、売上高は前期比10億83百万円減の290億92百万円となりました。



## ● インスタント食品その他

「なっとく」ブランド製品におきましては、レトルトカレーが堅調に推移いたしますとともに、新製品のドリアソースやパスタソースが売上に寄与いたしました。また、アネージブランドのパスタも売上に貢献いたしました。一方で、東日本大震災により当社の主力工場が生産を一時停止した影響から、無菌包装米飯類の売上が減少いたしましたため、売上高は前期比2億13百万円減の347億94百万円となりました。

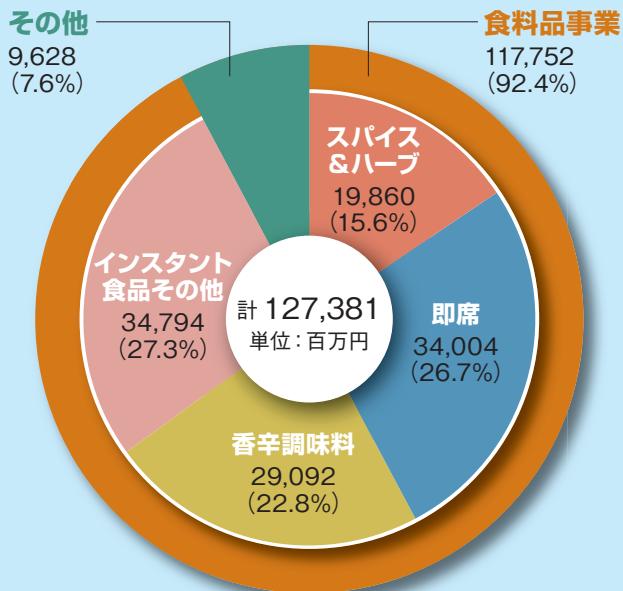


## その他

売上高 96億28百万円  
前期比 102.6%

調理麺が好調に推移するなど、調理済食品が前期実績を上回りました。

## 連結売上高構成比



## 即席カレーの製品展開(夏の需要期に向けて)

### 1. 「ディナーカレー」リニューアル

1973年の発売より高級即席カレーの市場をけん引してきましたフォン・ド・ボー<sup>®</sup>の深いコクと旨みが特徴の「ディナーカレー」を本年5月にリニューアルしました。

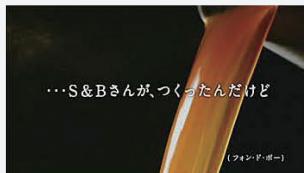
※フォン・ド・ボー…仔牛の骨や肉、香味野菜から手間ひまかけて作る洋風だし。

より深いコクをお楽しみいただくためフォン・ド・ボーの使用量を増やすとともに、ソースの味に厚みを出すためソテー・ド・オニオンの使用量も増やすなど、「ディナーカレー」が追求するこだわりを磨きをかけた。

当社では、これらのこだわりをお客様にお伝えするため、リニューアルにあわせてTVCMを投入するとともに、当社ホームページの「ディナーサイト」ではおすすめレシピなどを紹介しています。

また、パッケージについても上質感があるデザインにするとともに、「ディナーシチュー」・「ディナーハヤシ」のデザインもカレーと統一しました。

(当社ホームページ「ディナーサイト」：<http://www.sbfoods.co.jp/dinner/>)



### 2. 「ゴールデンカレー バリ辛」発売

昨年度に期間限定製品として販売した「ゴールデンカレー バリ辛」は、香辛料の辛さ・旨さ・香りに特化した製品としてご支持を得て、販売終了後も数多くの問い合わせをいただきました。こうしたご期待に応えて、本年6月に再び夏季限定製品として発売しました。

今回は、スパイスを長時間・高温で焙煎し、辛さ・旨さ・香りをルウに引き出す新たな製法を採用するとともに、ハバロネを超えた激辛唐辛子「ブート・ジョロキア」を使用することで、より刺激的な辛さが味わえる内容となっています。



これらの製品をはじめとして、即席カレーの積極的なプロモーション活動を行うことで、カレーの最需要期である夏場の需要喚起を図ります。

## 「濃いシチュー」が優秀ヒット賞を受賞

当社の即席シチュー「濃いシチュー」が、日本食糧新聞社主催の第30回優秀ヒット賞を受賞しました。この表彰制度は、新しい商材として食品業界に活発な需要を生み出し、流通部門を潤すとともに市場を活性化した商品を対象としているもので、当社はこれまで数々の製品が選ばれています。

「濃いシチュー」は濃厚な味わいをお楽しみいただける製品として昨年8月に発売し、新しいシチューの登場を多くのお客様に印象付けるために、TVCMの投入や、消費者キャンペーンを実施するなど、積極的な活動を進めてきました。また、ここ数年は「濃い味わい」が人気を集め、その切り口から数多くの製品が販売されていることから、こうしたトレンドと「濃いシチュー」がマッチしたことも好調な要因と考えています。

今後も、年間を通じて継続的な提案を行い、市場の活性化を目指します。



## Facebook当社公式ページの紹介

当社は、お客様との直接的かつ継続的な双方向コミュニケーションを目的として、昨年10月にFacebook公式ページを開設しました。

ここでは、TVCMに登場した当社香辛料製品「SPICE&HERB」シリーズのキャラクターである「バジル&シナモン」が案内役となり、スパイス&ハーブの使い方・楽しみ方に関することやキャンペーンの案内など多彩な情報発信を行っています。

ソーシャルメディアの活用としては、昨年3月にtwitterにて公式アカウント開設に続くものとなりますが、今後もお客様との充実したコミュニケーションを進めます。



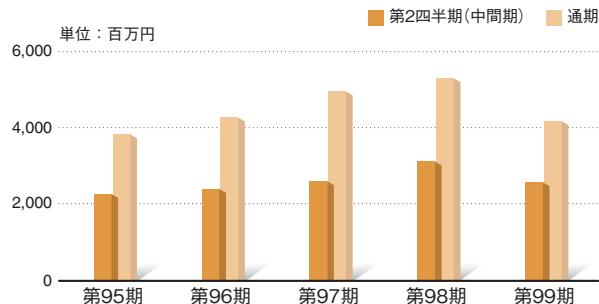
{ Facebook公式ページ : <http://www.facebook.com/sbfoods.inc/> }

# 業績の推移(連結)

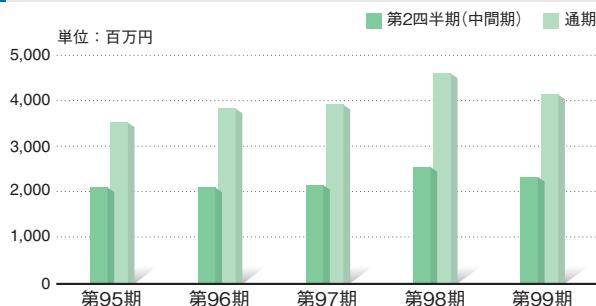
## 売上高



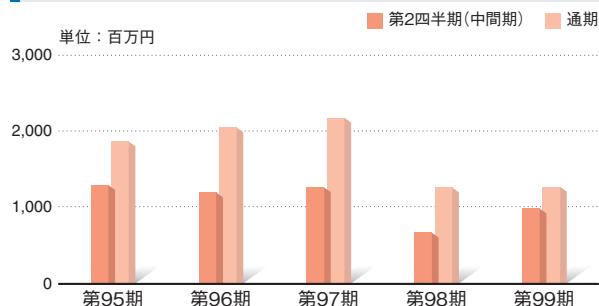
## 営業利益



## 経常利益



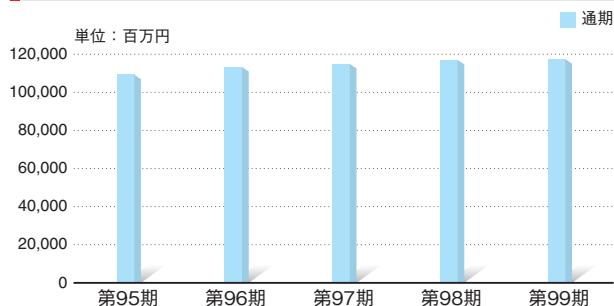
## 当期純利益



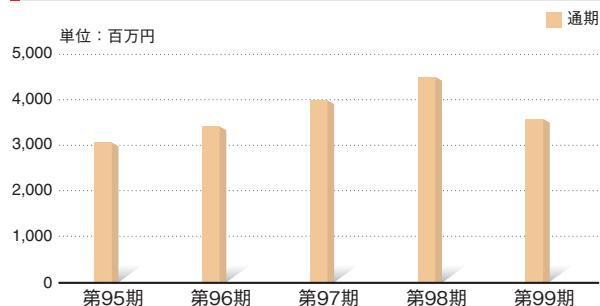
区 分	第95期	第96期	第97期	第98期	第99期
	(平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	(平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高 (百万円)	119,262	122,907	124,474	126,722	127,381
営業利益 (百万円)	3,797	4,304	4,956	5,352	4,178
経常利益 (百万円)	3,524	3,826	3,925	4,647	4,128
当期純利益 (百万円)	1,857	2,053	2,185	1,249	1,296
1株当たり当期純利益 (円)	53.32	59.01	62.78	35.93	37.31
純資産 (百万円)	23,564	23,833	25,820	26,916	28,118
総資産 (百万円)	94,511	95,985	95,290	94,970	97,142

# 業績の推移(単体)

## 売上高



## 営業利益



## 経常利益



## 当期純利益



区 分	第95期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	第96期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	第97期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	第98期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	第99期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売 上 高 (百万円)	109,801	113,297	114,994	116,927	117,480
営 業 利 益 (百万円)	3,040	3,428	3,990	4,492	3,538
経 常 利 益 (百万円)	2,823	3,206	3,596	4,082	3,358
当 期 純 利 益 (百万円)	1,464	1,741	1,985	909	1,187
1株当たり当期純利益 (円)	42.03	49.99	57.02	26.12	34.09
純 資 産 (百万円)	21,791	21,853	23,651	24,443	25,562
総 資 産 (百万円)	76,834	77,957	78,440	77,778	80,344

# 財務諸表(連結)

## 連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成23年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)
<b>[資産の部]</b>		
<b>流動資産</b>	<b>54,903</b>	<b>58,737</b>
現金及び預金	13,947	15,450
受取手形及び売掛金	23,599	25,261
商品及び製品	4,207	4,750
仕掛品	1,339	1,398
原材料及び貯蔵品	3,750	3,801
繰延税金資産	1,650	1,348
短期貸付金	6,750	6,902
その他	775	752
貸倒引当金	△1,116	△927
<b>固定資産</b>	<b>40,067</b>	<b>38,404</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>27,509</b>	<b>26,817</b>
建物及び構築物(純額)	10,657	10,075
機械装置及び運搬具(純額)	4,976	4,798
工具、器具及び備品(純額)	1,220	1,245
土地	10,219	10,102
リース資産(純額)	268	492
建設仮勘定	166	103
<b>無形固定資産</b>	<b>553</b>	<b>583</b>
のれん	26	22
リース資産	18	13
その他	509	547
<b>投資その他の資産</b>	<b>12,003</b>	<b>11,002</b>
投資有価証券	4,280	4,573
長期貸付金	2,709	2,155
繰延税金資産	3,247	2,545
その他	2,546	2,390
貸倒引当金	△778	△661
<b>資産合計</b>	<b>94,970</b>	<b>97,142</b>

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成23年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)
<b>[負債の部]</b>		
<b>流動負債</b>	<b>44,264</b>	<b>46,406</b>
支払手形及び買掛金	10,885	11,300
短期借入金	21,980	22,731
リース債務	85	132
未払金	8,497	9,106
未払法人税等	675	703
賞与引当金	1,184	1,168
資産除去債務	—	2
その他	954	1,261
<b>固定負債</b>	<b>23,789</b>	<b>22,617</b>
長期借入金	14,269	13,312
リース債務	216	401
再評価に係る繰延税金負債	1,552	1,345
退職給付引当金	6,002	6,068
債務保証損失引当金	218	343
資産除去債務	140	124
長期未払金	580	142
その他	808	880
<b>負債合計</b>	<b>68,053</b>	<b>69,023</b>
<b>[純資産の部]</b>		
<b>株主資本</b>	<b>30,800</b>	<b>31,592</b>
資本金	1,744	1,744
資本剰余金	5,344	5,344
利益剰余金	23,793	24,606
自己株式	△81	△103
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△3,883</b>	<b>△3,473</b>
その他の有価証券評価差額金	194	405
土地再評価差額金	△4,031	△3,831
為替換算調整勘定	△46	△47
<b>純資産合計</b>	<b>26,916</b>	<b>28,118</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>94,970</b>	<b>97,142</b>

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>126,722</b>	<b>127,381</b>
売上原価	71,084	72,154
<b>売上総利益</b>	<b>55,637</b>	<b>55,226</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>50,285</b>	<b>51,047</b>
販売促進費	29,775	30,753
広告宣伝費	3,675	3,779
貸倒引当金繰入額	210	—
給料及び手当	4,139	4,073
賞与引当金繰入額	606	587
退職給付費用	663	652
減価償却費	650	620
その他	10,565	10,581
<b>営業利益</b>	<b>5,352</b>	<b>4,178</b>
<b>営業外収益</b>	<b>384</b>	<b>648</b>
受取利息	85	91
受取配当金	106	113
不動産賃貸料	52	46
貸倒引当金戻入額	—	253
その他	139	143
<b>営業外費用</b>	<b>1,089</b>	<b>698</b>
支払利息	670	662
貸倒引当金繰入額	354	—
為替差損	29	1
その他	34	34
<b>経常利益</b>	<b>4,647</b>	<b>4,128</b>
<b>特別利益</b>	<b>68</b>	<b>76</b>
貸倒引当金戻入額	5	—
債務保証損失引当金戻入額	35	—
受取補償金	6	59
補助金収入	—	9
その他	20	7
<b>特別損失</b>	<b>1,738</b>	<b>586</b>
固定資産除却損	87	48
減損損失	15	193
投資有価証券評価損	1,350	0
ゴルフ会員権評価損	—	36
貸倒引当金繰入額	35	26
債務保証損失引当金繰入額	—	124
災害による損失	48	32
事業整理損	—	96
その他	201	28
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>2,977</b>	<b>3,619</b>
法人税、住民税及び事業税	1,266	1,310
過年度法人税等	530	100
法人税等調整額	△69	911
<b>法人税等合計</b>	<b>1,727</b>	<b>2,322</b>
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	<b>1,249</b>	<b>1,296</b>
<b>当期純利益</b>	<b>1,249</b>	<b>1,296</b>

## 連結株主資本等変動計算書

科 目	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
株主資本	
資本金	
当期首残高	1,744
当期変動額	—
当期変動額合計	—
当期末残高	1,744
資本剰余金	
当期首残高	5,344
当期変動額	—
当期変動額合計	—
当期末残高	5,344
利益剰余金	
当期首残高	23,793
当期変動額	
剰余金の配当	△487
当期純利益	1,296
土地再評価差額金の取崩	4
当期変動額合計	813
当期末残高	24,606
自己株式	
当期首残高	△81
当期変動額	
自己株式の取得	△0
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	△20
当期変動額合計	△21
当期末残高	△103

科 目	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
株主資本合計	
当期首残高	30,800
当期変動額	
剰余金の配当	△487
当期純利益	1,296
自己株式の取得	△0
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	△20
土地再評価差額金の取崩	4
当期変動額合計	791
当期末残高	31,592
その他の包括利益累計額	
その他の有価証券評価差額金	
当期首残高	194
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	210
当期変動額合計	210
当期末残高	405
土地再評価差額金	
当期首残高	△4,031
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	199
当期変動額合計	199
当期末残高	△3,831

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
為替換算調整勘定	
当期首残高	△46
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△0
当期変動額合計	△0
当期末残高	△47
その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△3,883
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	410
当期変動額合計	410
当期末残高	△3,473
純資産合計	
当期首残高	26,916
当期変動額	
剰余金の配当	△487
当期純利益	1,296
自己株式の取得	△0
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	△20
土地再評価差額金の取崩	4
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	410
当期変動額合計	1,202
当期末残高	28,118

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,664	3,731
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,315	△1,409
財務活動によるキャッシュ・フロー	△622	△809
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△289	1,512
現金及び現金同等物の期首残高	14,203	13,914
現金及び現金同等物の期末残高	13,914	15,427

※財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 財務諸表(単体)

## 貸借対照表

科 目	前事業年度 (平成23年3月31日現在)	当事業年度 (平成24年3月31日現在)
<b>[資産の部]</b>		
<b>流動資産</b>	<b>46,080</b>	<b>50,264</b>
現金及び預金	12,009	13,719
受取手形	4,944	4,947
売掛金	18,160	19,809
商品及び製品	4,107	4,613
仕掛品	1,258	1,329
原材料及び貯蔵品	3,480	3,592
前払費用	234	315
繰延税金資産	1,451	1,256
短期貸付金	1,790	2,002
その他	115	192
貸倒引当金	△1,471	△1,512
<b>固定資産</b>	<b>31,697</b>	<b>30,080</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>19,164</b>	<b>18,613</b>
建物(純額)	7,305	6,912
構築物(純額)	316	310
機械及び装置(純額)	2,523	2,426
車両運搬具(純額)	9	13
工具、器具及び備品(純額)	577	591
土地	8,066	8,039
リース資産(純額)	232	278
建設仮勘定	133	40
<b>無形固定資産</b>	<b>482</b>	<b>505</b>
借地権	41	41
商標権	1	0
ソフトウェア	375	425
リース資産	3	2
電話加入権	50	25
その他	10	10
<b>投資その他の資産</b>	<b>12,050</b>	<b>10,961</b>
投資有価証券	4,056	4,363
関係会社株式	909	901
出資金	297	246
関係会社出資金	286	286
関係会社長期貸付金	2,209	1,620
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	30	16
繰延税金資産	2,534	1,799
長期保険掛金	1,142	1,162
その他	1,064	959
貸倒引当金	△482	△397
<b>資産合計</b>	<b>77,778</b>	<b>80,344</b>

(単位：百万円)

科 目	前事業年度 (平成23年3月31日現在)	当事業年度 (平成24年3月31日現在)
<b>[負債の部]</b>		
<b>流動負債</b>	<b>32,842</b>	<b>35,590</b>
支払手形	3,983	4,047
買掛金	8,626	9,443
短期借入金	7,345	8,155
1年内返済予定の長期借入金	2,471	2,808
リース債務	73	98
未払金	8,166	8,720
未払費用	431	510
未払法人税等	588	538
前受金	4	2
預り金	56	121
前受収益	4	3
賞与引当金	984	967
資産除去債務	—	2
設備関係支払手形	105	170
その他	0	—
<b>固定負債</b>	<b>20,492</b>	<b>19,192</b>
長期借入金	12,377	11,592
リース債務	176	200
再評価に係る繰延税金負債	1,552	1,345
退職給付引当金	5,446	5,436
債務保証損失引当金	218	343
資産除去債務	125	116
長期未払金	573	135
長期預り金	23	22
<b>負債合計</b>	<b>53,334</b>	<b>54,782</b>
<b>[純資産の部]</b>		
<b>株主資本</b>	<b>28,275</b>	<b>28,978</b>
資本金	1,744	1,744
資本剰余金	5,343	5,343
資本準備金	5,343	5,343
その他資本剰余金	0	0
利益剰余金	21,230	21,934
利益準備金	436	436
その他利益剰余金		
厚生施設積立金	700	700
固定資産圧縮積立金	162	170
別途積立金	16,318	16,318
繰越利益剰余金	3,614	4,310
自己株式	△43	△44
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△3,831</b>	<b>△3,416</b>
その他有価証券評価差額金	200	415
土地再評価差額金	△4,031	△3,831
<b>純資産合計</b>	<b>24,443</b>	<b>25,562</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>77,778</b>	<b>80,344</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前事業年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	当事業年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>116,927</b>	<b>117,480</b>
<b>売上原価</b>	<b>64,072</b>	<b>64,754</b>
商品及び製品期首たな卸高	4,118	4,107
当期製品製造原価	30,914	33,484
当期商品仕入高	33,183	31,815
合計	68,216	69,408
他勘定振替高	36	40
商品及び製品期末たな卸高	4,107	4,613
<b>売上総利益</b>	<b>52,855</b>	<b>52,726</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>48,362</b>	<b>49,187</b>
販売促進費	29,610	30,752
荷造運搬費	2,455	2,484
広告宣伝費	3,643	3,744
貸倒引当金繰入額	440	—
給料及び手当	3,856	3,817
賞与引当金繰入額	582	565
退職給付費用	646	636
減価償却費	612	585
その他	6,513	6,600
<b>営業利益</b>	<b>4,492</b>	<b>3,538</b>
<b>営業外収益</b>	<b>322</b>	<b>388</b>
受取利息	75	85
受取配当金	104	111
不動産賃貸料	73	66
貸倒引当金戻入額	—	47
その他	69	76
<b>営業外費用</b>	<b>732</b>	<b>568</b>
支払利息	536	542
貸倒引当金繰入額	141	—
為替差損	29	1
その他	24	24
<b>経常利益</b>	<b>4,082</b>	<b>3,358</b>
<b>特別利益</b>	<b>61</b>	<b>75</b>
貸倒引当金戻入額	2	—
債務保証損失引当金戻入額	35	—
受取補償金	6	59
補助金収入	—	9
その他	16	6
<b>特別損失</b>	<b>1,674</b>	<b>275</b>
固定資産除却損	60	21
減損損失	9	34
投資有価証券評価損	1,350	0
ゴルフ会員権評価損	—	36
貸倒引当金繰入額	35	26
債務保証損失引当金繰入額	—	124
災害による損失	34	31
その他	183	1
<b>税引前当期純利益</b>	<b>2,468</b>	<b>3,158</b>
法人税、住民税及び事業税	1,058	1,034
過年度法人税等	527	100
法人税等調整額	△26	837
<b>法人税等合計</b>	<b>1,559</b>	<b>1,971</b>
<b>当期純利益</b>	<b>909</b>	<b>1,187</b>



# 会社情報

## 会社概要 (平成24年3月31日現在)

- 商号 エスピー食品株式会社
- 本社所在地 東京都中央区日本橋兜町18番6号
- 設立年月日 昭和15年4月5日(創業大正12年)
- 資本金 1,744百万円
- 従業員数 1,219名
- 主要な事業内容 スパイス&ハーブ(カレー粉、コショウ、洋風スパイスなど)、即席(ゴールデンカレー、ディナーカレー、とろけるカレー、とろけるシチューなど)、香辛調味料(本生 本わさび、おろし生しょうが、ねりからしなど)、インスタント食品その他(おでんの素、レトルトカレー、パスタソース、無菌包装米飯など)の製造販売

## 株式の状況 (平成24年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 88,000,000株
- 発行済株式の総数 34,885,585株
- 単元株式数 500株
- 株主数 5,485名
- 大株主

株主名	持株数	出資比率
峯栄興業株式会社	3,045 <sup>千株</sup>	8.73 %
山崎兄弟会	3,000	8.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,720	4.93
農林中央金庫	1,720	4.93
株式会社東京都民銀行	1,222	3.50
日本生命保険相互会社	904	2.59
セコム損害保険株式会社	881	2.53
大日本印刷株式会社	861	2.47
第一生命保険株式会社	622	1.78
株式会社三井住友銀行	611	1.75

## 役員 (平成24年6月28日現在)

取締役会長	江戸 龍太郎	監査役(常勤)	小池 宗夫
代表取締役社長	山崎 雅也	監査役(常勤)	島田 和典
代表取締役副社長	山崎 明裕	監査役	松延 洋平
代表取締役	荻原 敏明	監査役	葛山 康典
専務取締役首席執行役員	佐藤 哲也		
取締役執行役員	小形 博行	執行役員	加藤 康博
取締役執行役員	丹野 好生	執行役員	中西 友
取締役	谷 修	執行役員	荻原 修
		執行役員	荒木 哲二
		執行役員	谷 脇 一知

## 主な事業所 (平成24年6月28日現在)

名称	所在地	名称	所在地
本社	東京都	静岡BU	静岡県
八丁堀ハーブテラス	東京都	中部BU	愛知県
板橋スパイスセンター	東京都	北陸BU	石川県
北海道BU	北海道	関西BU	大阪府
北東北BU	岩手県	四国BU	香川県
南東北BU	宮城県	中国BU	広島県
首都圏北部BU	埼玉県	九州北BU	福岡県
首都圏東部BU	千葉県	九州南BU	鹿児島県
首都圏中央BU	東京都	沖縄BU	沖縄県
首都圏西部BU	東京都	上田工場	長野県
首都圏神奈川BU	神奈川県	東松山工場	埼玉県
新潟BU	新潟県	宮城工場	宮城県
長野BU	長野県		

(注) 上記表中「BU」はビジネスユニットを省略記載したものです。



## 各種手続きその他のご案内

### ① 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社にお申出ください。

### ② 未払配当金のお支払い

証券会社の口座の有無にかかわらず、株主名簿管理人である日本証券代行株式会社にお申出ください。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	日本証券代行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部
(電話照会先)	☎0120-707-843
(ホームページアドレス)	<a href="http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html">http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html</a>
公告方法	電子公告により行います。(URL: <a href="http://www.sbfoods.co.jp/">http://www.sbfoods.co.jp/</a> ) なお、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主優待制度	有



## 植林木

この報告書は、森林資源を守る為に計画的な植林によって育てられた樹木を原料としたパルプを使用しています。